

## 平成25年度 水工学委員会 活動

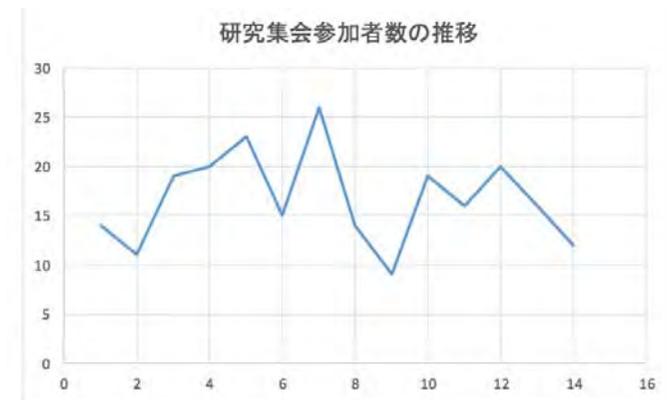
水工学委員会行事	開催形式	内容	開催場所	参加人数
5月10日	主催	平成24年7月九州北部豪雨による災害調査団合同報告会 「繰り返される豪雨災害への備え」	九州大学医学部百年講堂	
6月6日～7日	主催	第19回河川技術に関するシンポジウム	東京大学弥生講堂	
7月2日～4日	共催	平成25年度 魚道ワークショップ	日本大学理工学部駿河台校舎	132
8月22日～23日	主催	水シンポジウム こうち	高知市文化プラザかるぼーと	440
8月26～27日	主催	水工学に関する夏期研修会	名古屋工業大学	Aコース93名 Bコース111
9月4日	主催	工学会王国内国際研究討論会 「水理・水文解析のための汎用プラットフォームの活用と国際展開」	日本大学 生産工学部	
11月6日	主催	土木学会水工学委員会 京都・滋賀水害調査速報会	キャンパスプラザ京都	93
11月13日～15日	共催	河川流・河床変動解析ソフト:iRIC version2.0 講習会 in 関西	京都大学防災研究所	
11月18日	共催	土木学会水工学委員会 山口・島根水害調査速報会	山口県教育会館 ホール	
12月2日	主催	基礎水理シンポジウム2013 「移動床水理学が生態系保全に果たす役割」	土木学会講堂	48
12月16日	共催	流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ	土木学会講堂	
平成26年3月4日	主催	アゲールシンポジウム 「水工学における気候変動影響評価の礎(3)」	神戸大学	
平成26年3月4日	共催	河川災害に関するシンポジウム	神戸大学	
2014/3/4～6日	主催	第58回水工学講演会	神戸大学	

# 水文部会 活動報告

- 体制：
  - 部会長： 浅沼 順(筑波大学)
  - 副部会長： 風間 聡(東北大学)
- 報告：
  - 第14回地下環境水文学に関する研究集会
  - 水文研究集会(10/14-15、福島)

# 第14回 地下環境水文学に関する研究集会

- 日時： H25.10.5-10.6(2日間)
- 場所： キャンパスイノベーションセンター5F
- 出席： 12名
- 内容：（発表8件＋フリーディスカッション）
  - 環境動態
  - 地下水・土壌汚染
  - 地域の地下水環境
- 次回は、2014年に富山にて



# 水文研究集会

H25.10.14-15

- 参加者：17名
- 内容・行程：

– 14日（福島県穴原温泉）： 研究会

- 基調講演「もしドラッカーが教育研究をマネジメントしたら」(東大生研、沖大幹教授)

– 15日：見学

- 福島県県北浄化センター、阿武隈川中流部、同河口部復旧工事、仙台空港周辺復旧工事

– 協力：県北浄化センター、仙台河川国道事務所



浄化センター汚泥の貯蔵状況

# 環境水理部会報告

部会長 角(京大防災研)

## 部会の体制

部会長:角 哲也(京都大学)

副部会長:宮本 仁志(神戸大学)

幹事:赤松 良久(山口大学)

大石 哲也((独)土木研究所)

WG:震災対応WG(横山(首都大学東京))

## H25研究集会

教科書作成WG(二瓶(東京理科大)) 出版準備

流域圏WG(赤松) 「ゴミ」関係

樹林化WG(宮本) (新設)

# 環境水理部会研究集会(一ノ関, 気仙沼)実施報告

**H25研究集会**

1. 日時 平成25年5月31日(金), 6月1日(土)

2. 開催地 岩手県一関市文化センター

3. スケジュール

5月31日(金)研究発表会, 懇親会

10:00 会場・受付

10:40 開会挨拶(環境水理部会長・二瓶泰雄)

10:50 第一セッション(4題)～モデリング・工法～

13:20 **第二セッション(5題)～震災関連～**

15:50 **特別講演(2題)～一ノ関市・宮城県の復興～**

16:50 第三セッション(4題)～生態系～

17:50 閉会挨拶(次期部会長・角 哲也)

## 参加者数

①研究集会 42名(うち2名招待講演)

②見学会 36名

座長: 二瓶泰雄

座長: 角 哲也

座長: 横山勝英

座長: 竹林洋史

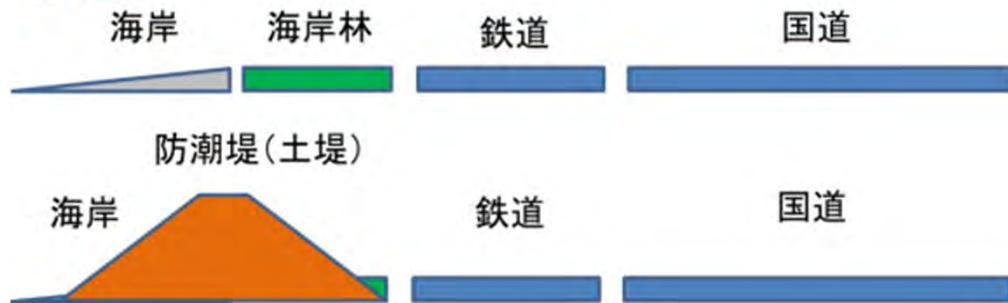


## 6月1日(土)三陸被災地の見学会

気仙沼市・南三陸町における津波被害と海岸・河口の環境変化, 復興の見通し, 海岸堤防の建設などについて, 被災者からお話を伺った.

## 現地見学会

### 防潮堤計画と環境(景観)保全の両立に課題



## 「環境水理学」の目次

1. 環境水理学とは
2. 水の動態
3. 熱・塩分の動態
4. 土砂・懸濁物質の動態
5. 水質の動態と生態系
6. 流域圏における環境水理的課題の現状と対策

### 今後の予定

- 3月末 土木学会へ提出
- H26年度 出版予定

# 流域圏WG

## 第4回流域圏シンポジウム 開催

タイトル:「流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題」  
～陸域から内湾(湖沼)までを俯瞰的に理解する～  
第四回:漂流・漂着ゴミー研究の最前線と今後の課題

主催:土木学会水工学委員会環境水理部会／水環境学会ノンポイント汚染研究委員会／土木学会海岸工学委員会／沿岸環境関連学会連絡協議会

日時:2013年12月12日(木) 13:00～17:40

場所:首都大秋葉原キャンパス・ダイビル12F

参加者:55名

# プログラム

- 13:00～13:05 開会挨拶 角(環境水理部会長・京都大学)
- 13:05～13:10 趣旨説明 日向博文(国総研)
- **PART1 研究最前線—化学汚染** 司会:二瓶(東京理科大学)
  - 13:10～13:35 「化学汚染物質の輸送媒体としての漂流ゴミ／レジンペレットラッチ」  
高田(東京農工大)
  - 13:35～14:00 「化学汚染物質の輸送媒体としての漂流ゴミ／重金属」中島(高知県梶原町)
- **PART2 研究最前線—輸送動態** 司会:赤松(山口大学)
  - 14:10～14:35 「東アジア海域における海ゴミ輸送の実態」加古(鹿大)
  - 14:35～15:00 「河川からの沿岸へのフラックス」 二瓶(東京理科大)
  - 15:00～15:25 「出水時における流木輸送」 矢野(九州大学)
  - 15:25～15:50 「漂着ゴミの海岸での滞留時間」 片岡(国総研)
- **PART3 今後の課題と方針** 司会:日向(国総研)
  - 16:00～16:25 「漂流漂着ゴミ対策—国内・国際的な視点から」 多田(環境省・海洋環境室)
  - 16:25～16:50 「漂流漂着ゴミ対策—民間の役割、山形県の取り組み」 金子(JEAN)
  - 16:50～17:15 「漂流漂着ゴミ対策—今後の研究の方向性」 磯辺(愛媛大)
  - 17:15～17:35 総合討論

## 樹林化ワークショップ2013 開催報告

- 共催: **環境水理部会樹林化WG** & **河川部会河道WG**
- 目的: 樹林化事例収集, 情報交換  
DB(樹林化カルテ)作成へむけてのキーファクター抽出

日 時: 11月15日(金)18:30~16日(土)17:00

会 場: 東京大学工学部1号館14号講義室

参加者: 24名

### ・プログラム:

#### 15日(初日)

18:30~20:00: 自己紹介 with 軽食, Beer (Ice Break)

◎ ワークショップ趣旨説明, 運営方法, 目標設定

◎ 参加者自己紹介(宿題発表)

20:00~21:00: 自由討議

◎ 情報交換, ワークショップ二日目のグループピング

## 16日(二日目)

9:00~10:00: 基調講演

◎ 清水義彦教授@群馬大学, 前野詩朗教授@岡山大学

10:00~12:00: Group Discussion & 意見取りまとめ

12:00~12:30: Group間の情報交換, 午前中の中間取りまとめ

12:30~13:30: 昼食

13:30~15:30: 全体 Discussion & 意見取りまとめ

15:30~17:00: ワークショップ成果取りまとめと課題抽出



# H26研究集会(予定)

- 日時: 2014年5月28-30日
- 場所: 岐阜市生涯学習センター
- 行程:
  - 5/28 ダム見学(徳山ダム, 横山ダム)
  - 5/29 研究発表会
    - 特別講演会(高橋勇夫:たかはし河川生物調査事務所)
    - 懇親会(ナイトセッション)
  - 5/30 見学会
    - 自然共生研究センター
    - 世界淡水魚水族館(アクア・トト)
- 参加申込み: 4/25まで(詳細確定後、部会HP掲載予定)

# 水工学委員会小委員会 ISO/TC113 国内検討委員会報告

小委員長 堀田 哲夫

## 1) TC113 開水路の流量観測の概要

ISO/TC113 は、「開水路における水位、流速、流量及び土砂輸送、降水、蒸発散、そして地下水の利用と挙動に関する水文観測の方法、手法、機器そして装置の標準化」を対象とする専門技術部会であり、5つの SC（小委員会）を持ち、現時点で約 80 の規格を取り扱っている。

①ISO/TC113（流量観測）	: 幹事国（インド）,	参加形態（P）水工学委堀田
②SC1（面積流速法）	: 幹事国（インド）,	参加形態（P）土研岩見
②SC2（観測装置）	: 幹事国（イギリス）,	参加形態（P）土研箱石
③SC5（測定機器とデータ管理）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（P）Frics 中尾
④SC6（浮遊砂、掃流砂）	: 幹事国（インド）,	参加形態（O）首都大横山
⑤SC8（地下水）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（O）埼玉大渡辺

## 2) 第 29 回メキシコ会議参加報告（2013 年 11 月）

本省電通室、土木研究所、FRICS、建電協、機械学会から参加。

- ①今後「Rain gauge Pit design（雨量観測場の設計）」に関する新規規格に着手する。（英）
- ②非接触型測定法の利用に関する TR（技術報告書）の素案を新規提案項目として日本が準備する。
- ③ISO/TR 9210（不安定境界の蛇行河川での観測）の改訂に日本が参加する。
- ④ISO 1438-1（刃形堰による流量観測）の改定案を日本が準備する。
- ⑤日本提案の TS24155（水文観測データ伝送システム）の IS 昇格へ向けた討議対応
- ⑥その他数理モデルによる貯水池堆砂量評価、地下水人工涵養等の規格作成が目新しい。
- ⑦次回 30 回総会の日本開催が正式決定（2015 年 5 月 24 日（日）～5 月 29 日（金））

### 3) 日本開催等に向けた活動状況

日本開催の準備会議を7月、11月、1月の3回にわたって開催し、役割分担を明確化するとともに、次のような方向で取り組むこととしている。

①会場：土木学会会議室（前回；2004年5月つくばセンター）

②ホスト：土木研究所、事務局；土木学会国際センター

③【スケジュール】※予定

日程	会合	備考
2015/5/24(日)	Secretary's & Chair's meeting	
2015/5/25(月)	Opening Meeting-1 <sup>st</sup> Plenary Session Meeting of ISO/ TC 113/SC1& its WG	記念撮影 レセプション
2015/5/26(火)	TECHNICAL TRIP	関東地整協力
2015/5/27(水)	Meeting of ISO/ TC 113/SC 2	
2015/5/28(木)	Meeting of ISO/ TC 113/SC 5 Meeting of ISO/ TC 113/SC 6	
2015/5/29(金)	Meeting of ISO/ TC 113/SC 8 Plenary meeting of ISO/ TC 113	

④役割分担

国際事務局との調整、文書管理、参加者支援、予算（河川整備基金）・会計、会場設営、テクニカルトリップ、レセプション、記録、プレミーティング等国内啓発等の役割分担

#### 4) 今後の課題

①来年の日本開催を前に、メンバーを固め体制を強化する。(現在メンバー見直し中)

国際的な体制強化に伴い本省情報企画室や土木研究所等関係者の取り組み意識が高まっているが、水工学委員会としても協力体制を強化しなくていいか？(例えばアドバイザーあるいはオブザーバーとしての参画、ただし旅費等の予算なし)

②日本開催を機に ISO への理解を得るべく国内関係機関への働きかけを行う。

本省でも考えて頂けるようですが、具体には日本開催へのメーカー、海外展開コンサルタント等関係機関も含めた産学への働きかけをどうするか。

# 流量観測技術高度化小委員会報告

2014.3.4

## 2014年度 流量観測現地ワークショップの開催

日 時：2014年4月23日（水）～26日（土）午前まで

場 所：新潟県魚野川根小屋橋（最寄駅：上越線 越後堀之内駅）

4月23日（水） 土木研究所現地入り、観測準備開始

4月24日（木） 午後 予備観測開始

4月25日（金） 終日 観測本番

国土交通省 水文担当者の方々が見学予定

4月26日（土） 午前 観測

午後 解散

## 第3回 流量観測の高度化に関する勉強会

日時：7月下旬～8月上旬

（7月28日～8月8日の間の平日）

場所：国土交通省本省

# 水害対策小委員会 活動報告

# 2013年度の活動

- 2013年3月： 小委員会発足
- 2013年5月～： ヨーロッパ水害の情報収集
- 2013年7月： 小委員会Facebookページ及びHPの立ち上げ  
2013年度第一回小委員会開催  
水害発生時の水工学委員会対応マニュアル(案)の作成  
山形水害調査団結成・活動のサポート  
山口・島根水害調査団結成・活動のサポート
- 2013年8月： 秋田・岩手水害調査団結成・活動のサポート  
島根水害調査団結成・活動のサポート  
テックフォースサポート研究者リストの作成
- 2013年9月： 京都・滋賀水害調査団結成・活動のサポート  
調査団腕章の各支部配備
- 2013年10月： 土木学会伊豆大島緊急調査団活動のサポート  
CPD申請用紙の作成
- 2013年11月： 京都・滋賀水害調査団速報会のサポート
- 2014年1月： 4学会合同伊豆大島調査団報告会のサポート
- 2014年3月： 2013年度第二回小委員会開催  
河川災害シンポジウムの実施

# 2014年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 総務省・消防との情報交換, 連携確認
- ・ スィフトレスキューマニュアルの検討

2014年7月: 2014年度第一回小委員会開催  
水害発生時の水工学委員会対応マニュアルの完成

2015年3月: 河川災害シンポジウムの実施  
2014年度第二回小委員会開催

水工学委員会2014.3.4神戸大学

## 水理公式集編集小委員会[案]

水理公式集編集小委員会委員長  
辻本哲郎(名古屋大学)

編集幹事

清水義彦(群馬大学, 編集幹事長)

立川康人(京都大学)

関根正人(早稲田大学)

知花武佳(東京大学)

戸田祐嗣(名古屋大学)

後藤仁志(京都大学)

# 編集委員の担当

## 第1編 水文・水理

中北英一(京都大学)／細田尚(京都大学)

## 第2編 河川・砂防

寶 馨(京都大学)／中川 一(京都大学)  
／藤田光一(国土技術政策総合研究所)

## 第3編 ダム

箱石憲昭(土木研究所)／角 哲也(京都大学)

## 第4編 水資源・水処理

沖 大幹(東京大学)／古米弘明(東京大学)  
／田中宏明(京都大学)

## 第5編 海岸・港湾

間瀬 肇(京都大学)／後藤仁志(京都大学)

## 第6編 河川・流域環境

萱場祐一(土木研究所)／二瓶泰雄(東京理科大学)

### ○アドバイザー

山田 正(中央大学)

寶 馨(京都大学)

道奥康治(水工学委員会委員長, 神戸大学)

# 編集方針

## 水理公式集のユーザー

- (1) 計画・設計などにおける「公式」利用いただく実務者
- (2) 基準, マニュアル・ガイドライン作成のよりどころを期待する行政
- (3) 基礎研究の実用化の基準や専門を少し外れたところの情報に期待する研究者
- (4) 実学に触れたり, 卒論・修論などで利用する学生

## 公式集の役割

- 計画・設計, 研究の展開などでベースになる「集約された情報」(Input→Output型)としての公式集の本来的役割を発揮する編集形態
  
- 「便覧」, 「ハンドブック」, 「教科書」との差別化
  - ・ 情報について「語句」での個別検索を主体とする「便覧」, 「ハンドブック」
  - ・ 学術のシナリオでの体系化された「教科書」類
  
- 「ユーザーの要請」に応じた知見とその目的に応じた体裁での整理を目指す.

「公式」とは,

(1) 理論的に導けるもの

(2) 実験・実測, 経験の積み重ねによって信頼される情報

ただし,

(3) ユーザーの要請がある情報については信頼性の規準を明記した上で情報提供することも有り

## 発刊までのスケジュール

○2014(H26) 3月 4日 水工学委員会にて, 編集方針, 目次案等の報告

○2014年(H26)3月26日 第1回編集小委員会の開催  
(スケジュールの確認と詳細目次および執筆者の確定, 原稿依頼の開始)  
(原稿素案(第1稿)は8月末までに作成)

○2014年(H26)6月16日(月)or 30日(月)  
第1回編集幹事会の開催(第1回水工学委員会終了後を予定)

○2014(H26) 9月 第2回編集小委員会  
(原稿素案(第1稿)の確認および他内容との整合性の確認)

○2015(H27) 3月 第3回編集小委員会(全原稿の完成と修正依頼)

○2015(H27) 9月 第4回編集小委員会(最終原稿の確認と提出)

○2016(H28) 3月 発刊

発刊に向けての皆様のご協力, よろしくお願い申し上げます.

水理実験指導書改訂小委員会報告

2014.3.4 水工学委員会

・委員会構成

藤田一郎	神戸大学大学院工学研究科	市民工学専攻
神田佳一	明石工業高等専門学校	都市システム工学科
岡田将治	高知工業高等専門学校	環境都市デザイン工学科
宇野 宏司	神戸市立工業高等専門学校	都市工学科
三輪 浩	舞鶴工業高等専門学校	建設システム工学科
和田 清	岐阜工業高等専門学校	環境都市工学科
内田龍彦	中央大学研究開発機構	
山上路生	京都大学工学研究科	社会基盤工学専攻
椿 涼太	広島大学大学院	社会環境システム専攻

## ・第2回小委員会議事録

日時：平成25年8月29日(木) 13:00-18:00

場所：神戸大学C1-202

出席者：藤田、和田、神田、三輪、山上、椿、岡田、宇野 の8名

### 1) 出版委員会の報告 (8/28, 藤田)

出版までのスケジュールについての確認 平成26年7月に最終版原稿を完成させる

### 2) 全体構成(作成時のフォーマット)の確認

- ・本文はMS明朝, 10.5pt とする. 図番号はMSPゴシック, 9ptとする.
- ・英数字は半角でTimes New Roman を使用する.

etc.

- ・旧版の図面の利用については, 出版社側で対応可能ということでしたので, そのまま, 使用する場合には特に新たにトレースなどする必要はなし.

(藤田委員長が, 委員会後に出版社に確認済み)

### 3) 各章の説明と修正箇所の確認

- ・各委員から担当箇所について説明を行い, 修正箇所を確認した.
- ・巻頭(数ページ)に掲載するカラーページについて, 各章で適当なものがあれば提案する.
- ・旧版の内容とほとんど変える必要がない場合でも, 設問のなどを工夫する.

### □ウェブ利用の方法

- ・データシートは解説書には掲載せず, 専用ホームページからダウンロードができる形式にする. また, Excel ファイルは実験データを入力すれば自動で計算, 図化できるような形式にせず, 実施例をPDFファイル等で掲載する.

### □今後の予定

次回の開催：3月の水工学講演会(神戸大学)の際に開催を予定(3月5日)

# 検討事項

意見交換の結果、以下のような実験項目の変更・追加、役割分担などを決定した。

1. 指導書のサイズはA4版に変更する
2. 指導書の名称を、「水理実験解説書」に変更する ⇒ 変更可能かどうか確認が必要
3. データシートはウェブからもダウンロードできるようにする。ただし、どこからダウンロードできるようにするか（土木学会HPで会員番号入力？ or 出版社のHP, etc.）については今後の検討が必要。水理公式集の様子も見て判断する
4. 平成13年度版の原稿があるかどうか調査する ⇒ 岩西さんに問合せ中（藤田） ⇒⇒ 旧原稿はないことが判明
5. 原稿の提出方法（文章と図面）について確認する ⇒⇒ 新規に作成する必要あり
6. 定価は現在1000円だが、1500円までなら大丈夫ではないかと思われる ⇒ 今後の検討事項
7. 可能ならカラーの口絵をつける
8. 原稿の執筆状況がわかるウェブサイトを立ち上げる（宇野先生提案）  
⇒⇒ 椿先生の提案で共有のSkyDriveをすでに立ち上げて過去の資料や原稿のアップロードを実施している
9. 目次と担当は以下の通りとする（赤字は、旧版からの変更が大きい項目や追加項目）

水工学委員会  
2014年3月

# 土木学会論文集編集調整会議からの報告

# 土木学会論文集編集調査委員会議からの報告

(1) 平成25年1～1月に掲載された土木学会論文(水工学B1)

□ 掲載数:通常号 12 編, 英文 7 編 (返却 4 編)

□ 投稿から掲載までの期間:8.16 ヶ月

# 土木学会論文集編集調査委員会議からの報告

## (2) J-Stage のXML化に対する対応:

- 通常号に関しては、現在、Word組版ソフトにてその対応が可能となるように検討を進めている。(3月末まで)
- これとは別に、Excel上でBib-XMLファイルを作成するためのツールを開発中.
- 特集号(水工学論文)については、そのフォーマットを通常号に合わせるならば、これらのツールが活用可能である. 特集号用に修正したバージョンのものを作成できないかを打診中.
- 4月以降に特集号の対応をも含めて意見交換を行うため、合同の編集調整会議を開催する予定.

## 土木学会 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

Subcommittee on Cooperation between watershed management and regional planning, JSCE

[ホーム](#) ・ [部会メンバー](#) ・ [活動記録](#)

### 小委員の目的

- 本小委員会は、土木学会水工学委員会と土木計画学研究委員会の研究者からなる両委員会共同所管の小委員会として平成14年10月7日に設立されました。
- 河川は、治水・利水・環境といった多様な側面で地域と密接な関わりを持っており、そこに生じる諸課題には、水工学と土木計画学とが連携をして取り組むべき課題が多く存在します。本小委員会は、河川をキーワードに、流域管理と地域計画の連携の視点から取り組むべき研究について幅広く議論を展開し、連携研究の活性化、新たな研究テーマの発掘を目指します。
- 本小委員会は、水工学と土木計画学に携わる研究者および都市と河川行政関係者が今後の流域管理と地域計画の具体的な連携方策について議論し、国土交通省水管理・国土保全局の河川砂防技術研究開発制度等と連携して特定課題について共同研究等を実施することにより、流域管理と都市・地域計画の相互連携による総合的な街づくりの実現を目指します。

### これまでの活動

- [流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ](#)
  - 日時：平成25年12月16日（月）14:00～17:0
  - 場所：土木学会講堂
- 平成25年度第1回流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
  - 日時：平成25年7月22日(月)15:00-17:30
  - 中央合同庁舎3号館1階 共用第一会議室
- 平成24年度第1回流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
  - 日時：平成24年7月25日(水)10:00-11:30
  - 中央合同庁舎3号館1階 水管理・国土保全局A会議室

## CommonMP開発・運営コンソーシアム

平成25年9月 全国大会研究討論会

平成25年9月 全国大会共通セッション

平成25年11月 CommonMP ver. 1.3

平成26年2月 勉強会

平成26年3月 企画・普及・開発部会

# 第19回水シンポジウム2014 in ながさき 開催概要(案)

## メインテーマ (案)

見なおそう! 「水と人との関わり」と今後の備え  
 ~ 和・華・蘭まちから 水に学ぼう・取り組もう ~

## シンポジウム開催趣旨

長崎県は、わが国の西の端に位置する海洋県で、山が海に迫る地形のために水に乏しい特性があります。このため、かつて住民が協力してつくった水路や、明治期につくられたわが国初の水道専用ダムなど、様々な取組みにより、人々に水の恵みがもたらされてきました。

また、海洋性気候のゆえに豪雨災害を受けやすい特性から、1957年の諫早大水害や1982年の長崎大水害などの大災害で被災し、その度に復興を果たしてきました。

一方、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、近年、災害リスクが高まっています。このような今、1571年の開港をへて東西の文化を集め、「和・華・蘭」文化をはぐくんできた長崎のまちには、これからの水と私たちとの関係を見なおす上で、様々な手がかりがあります。

そのような長崎県で、水と人との関わり（治水・利水と環境の調和、大災害への備え、水資源の確保、私たちの水に対する意識や防災意識の向上と行動を促す方策、気候変動への適応策）について議論し、全国に情報発信します。



## プログラム概要 (素案)

8月21日(木) **シンポジウム** 長崎ブリックホール・大ホール 定員 600名

### 午前の部

9:30 開会 (9:00 開場)  
 10:00 特別講演「(仮題) 地球温暖化問題と水資源・水災害」(日本水フォーラム報告)  
 10:40 基調講演「(仮題) 気候変動の影響とこれからの水と人との関わり」  
 11:50 昼休憩

### 午後の部

13:00 **テーマ別分科会**(パネルディスカッション)  
 15:10 休憩・移動  
 15:30 **みて! 聞いて! 私たちのよか川**  
 (子どもたちによるイベント)  
 16:00 **全体会議**  
 17:00 次回開催県挨拶・閉会 (17:10)

### 第1分科会「(仮題) 水の恵みを守り活かそう ~ 水資源を次世代につなぐ長崎の知恵を再発見 ~」

長崎県がかかえる濁水等の問題と、明治期の水道専用ダムにはじまる取組みを専門家の方々にご紹介いただき、私たちにもたらされる水の恵みを見つめ、次世代につなぐ方策を議論します。

### 第2分科会「(仮題) 長崎から取り組もう ~ 水の恐さとやさしさと共に ~」

長崎県内の川で活動する団体や大学生を含めたメンバーにより、非常時と平常時の水のすがたに着目し、水災害に備えたこれからの気候変動への適応策の方向性について意見交換を行います。

## 8月22日(金) 現地見学会 「(仮題) 中島川歴史さるく & 稲佐山・浦上川探訪」

ふだん見ることができない歴史的な水に関わる施設など、長崎の新たな一面を再発見します。  
 定員：40名 参加希望者のみ 参加費：2,000円(予定：昼食込) 集合9:00、解散16:00

## 主催 第19回水シンポジウム2014 in ながさき 実行委員会

(公益社団法人土木学会 水工学委員会、国土交通省九州地方整備局、長崎県、長崎市)

# 水シンポジウム長崎(第一分科会)

「水の恵みを守り活かそう

～ 水資源を次世代につなぐ長崎の知恵を再発見 ～」

水工学委員会環境水理部会長(コーディネーター)

京都大学 教授 角 哲也

(テーマ1)水の恵み(歴史的水道施設、ダム役割)

長崎大学名誉教授 岡林 隆敏

(長崎水道の成立や近代化に果たした役割)

長崎市上下水道局事業部浄水課長 魚谷 伸介

(長崎の利水の現状、濁水の歴史)

(一般財団)ダム技術センター主席研究員 川崎秀明

(長崎のダム再開発(長崎方式)の先進性)

(テーマ2)海との関わり(物質循環、森・里・海連環)

首都大学東京 准教授 横山勝英

(河川を通じた物質循環の重要性)

ダムフルボ酸鉄研究会 堀家茂一

(ダム堆積物を利用した藻場再生、水産資源)

## 水工学委員会メニュー

- 水工学委員会ホーム
- ▷ 水工学委員会について
- 部会・小委員会・懇談会など
- 水工学に関する夏期研修会
- 水シンポジウム
- お知らせ
- 委員専用

## 水工学講演会WEBページ

- ▷ 水工学講演会のWEBページ
- ▷ WEB PAGE for Conference on Hydraulic Engineering

## 内規

- ▷ 水工学委員会内規

## 水工学委員会

土木学会 水工学委員会  
**Committee on Hydrosience and Hydraulic Engineering**

## 「水シンポジウム 2014 in ながさき」の開催について

投稿者: 朝位 孝二 投稿日時: 火, 2014-02-11 20:47

「水シンポジウム 2014 in ながさき」の開催について

主催: 第19回 水シンポジウム 2014 in ながさき 実行委員会  
 (公益社団法人 土木学会水工学委員会、国土交通省九州地方整備局、長崎県、長崎市)

期日: 8月21日(木)、22日(金)

場所: 長崎ブリックホール・大ホール

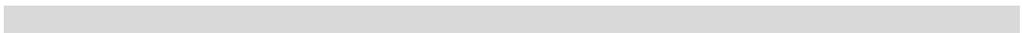
添付の開催概要(案)をご覧ください

水工学に関する夏期研修会開催地一覧

資料—5

回	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
1					京都			
2	札幌							
3			東京					
4				名古屋				
5								福岡
6		仙台						
7							広島	
8			東京					
9					大阪			
10						徳島		
11	札幌							
12								福岡
13				長野				
14			東京					
15		仙台						
16					京都			
17	札幌							
18							岡山	
19								福岡
20				岐阜				
21			東京					
22		岩手						
23					神戸			
24	札幌							
25							鳥取	
26								福岡
27				金沢				
28			東京					
29		秋田						
30					大阪			
31	北見							
32							宇部	
33						徳島		
34				名古屋				
35								北九州
36			東京					
37		山形						
38					京都			
39							岡山	
40	釧路							
41						愛媛		
42				岐阜				
43								福岡
44			東京					
45		郡山						
46					神戸			
47							広島	
48	札幌							
49				名古屋				
50								北九州
51			東京?					

回	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
38			中央大					
39			中央大					
40			中央大					
41			中央大					
42							鳥取	
43					立命館大			
44		日大						
45			東工大					
46				名工大				
47			早稲田大					
48								熊本大
49			国士館大					
50					京都大			
51			法政大					
52							広島大	
53			芝浦工大					
54	北大							
55			東大生研					
56						愛媛大		
57				名城大				
58					神戸大			
59			早稲田大					
60								



## 水シンポジウム開催実績

回	年	開催地					
		北海道 東北	関東	中部 甲信越	関西	中国 四国	九州 沖縄
1	1996					鳥取県	
2	1997				兵庫県		
3	1998	福島県					
4	1999		東京都				
5	2000						熊本県
6	2001			富山県			
7	2002	北海道					
8	2003					愛媛県	
9	2004					広島県	
10	2005				大阪府		
11	2006	宮城県					
12	2007			愛知県			
13	2008		千葉県				
14	2009			新潟県			
15	2010						福岡県
16	2011				京都府		
17	2012			岐阜県			
18	2013					高知県	
19	2014						長崎県
20	2015						
未 開 催	岩手県	茨城県	三重県	滋賀県	島根県	佐賀県	
	山形県	栃木県	静岡県	奈良県	岡山県	大分県	
	秋田県	群馬県	長野県	和歌山県	山口県	宮崎県	
	青森県	埼玉県	石川県	福井県	徳島県	鹿児島県	
		神奈川県	山梨県		香川県	沖縄県	

## 2014年度(第50回)水工学に関する夏期研修会(Aコース)実施案

西部地区 委員 鬼束(九工大)、委員兼幹事 杉原(九大)

1. 開催日: 2014年8月25日(月)・26日(火)の2日間
2. 会場: 九州工業大学戸畑キャンパス 総合教育棟 C-1A講義室、C-2A講義室  
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1  
URL: <http://www.kyutech.ac.jp/information/map/tobata.html#sub3>
3. Aコース(河川・水文コース)総合テーマ案:

### 「近年の大規模水害と予測・対策技術の高度化」

近年、記録的な豪雨が頻繁に観測されており、全国各地で大規模な水害が発生しています。そのような大規模水害への対策が防災技術・政策の観点から喫緊の課題となっており、土木分野において非常に大きな関心を集めています。そこで、この分野の最新の知見をお持ちの先生方を講師に迎えて、「2014年度(第50回)水工学に関する夏期研修会」におけるAコース(河川・水文コース)の総合テーマとして「近年の大規模水害と予測・対策技術の高度化」を企画いたしました。

#### 4. 講義案:

※各講義名は仮題です. お名前を挙げている講師の方々には内諾を頂いております.

##### 第1日

#### (1) 近年の大規模水害の特徴

キーワード: 洪水, 土砂災害, 災害調査, 災害外力, 地球温暖化, 適応策, リスクマネジメント

講師: 九州大学大学院工学研究院 特命教授 小松利光 先生

#### (2) 九州地域の大規模水害と河川整備計画

キーワード: 九州, 河川整備計画, 洪水対策, 危機管理, 維持管理

講師: 検討中 ※九州地方整備局または地方自治体の方を想定しています.

#### (3) 大規模水害に適応可能な河道設計と河道管理

キーワード: 河道設計, 河道管理, 洪水流, 河床変動, 土砂移動, 樹林

講師: 中央大学研究開発機構 教授 福岡捷二 先生

#### (4) 河川堤防の決壊と対策技術

キーワード: 破堤, 河岸侵食, 土砂流出, 河川構造物, 外水氾濫

講師: 京都大学防災研究所 教授 中川 一 先生

##### 第2日

#### (5) 集中豪雨のリアルタイム観測・予測技術

キーワード: 気象レーダー, 降水量推定, ゲリラ豪雨, 異常降雨, 気候変動

講師: 京都大学防災研究所 教授 中北英一 先生

## (6)洪水と河床変動・河岸侵食の予測技術

キーワード:洪水, 土砂移動, 河床変動, 河岸侵食, 蛇行, CFD, iRIC

講師:北海道大学大学院工学研究院 教授 清水康行 先生

## (7)都市域の包括的氾濫解析

キーワード:都市水害, 破堤, 内水氾濫, 浸水, 市街地, 雨水管理, CFD

講師:九州工業大学大学院工学研究院 教授 秋山壽一郎 先生

## (8)災害情報と地域防災力

キーワード:地域防災力, 災害情報, ハザードマップ, 避難行動, 防災教育

講師:検討中

参考:

Bコース総合テーマ案:「海岸・港湾に関する調査・観測の技術」

講義案 ※講義名および順序は仮のものです.

第1日

- (1)気象関連の観測
- (2)ナウファス
- (3)京大防災研白浜観測所
- (4)有明海での観測

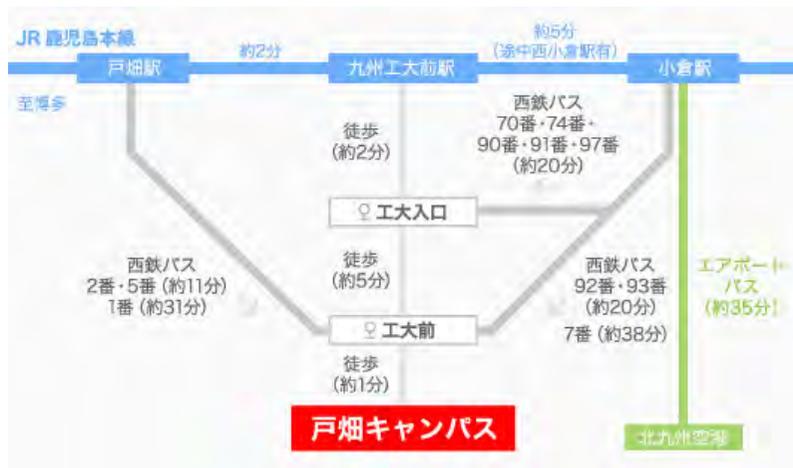
第2日

- (5)漂砂・海浜変形
- (6)災害調査
- (7)あびき・副振動
- (8)歴史津波・津波石

## 5. 会場へのアクセスとキャンパスマップ：九州工業大学戸畑キャンパス



戸畑キャンパスの所在地



交通案内



キャンパスマップ（図中の総合教育棟が会場）

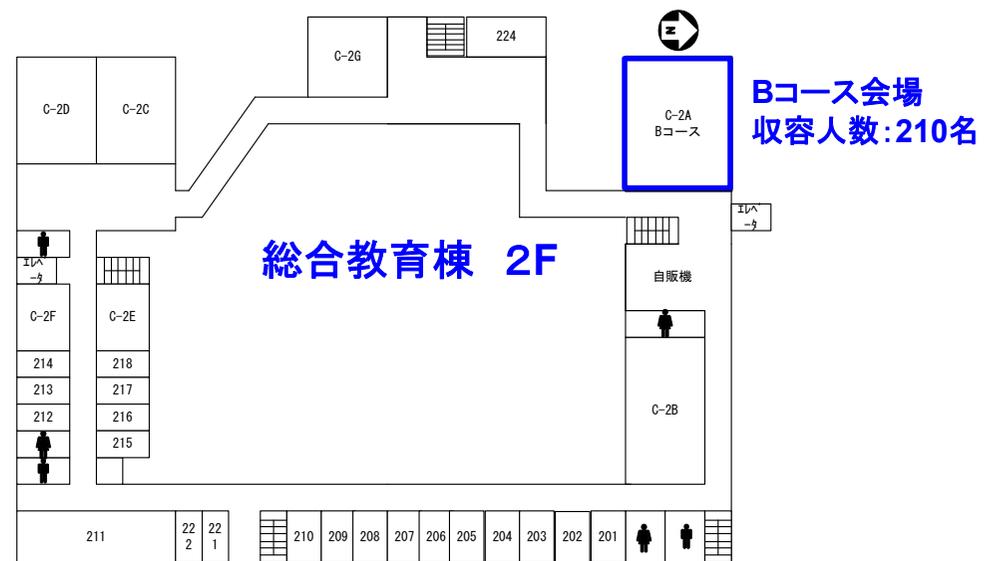
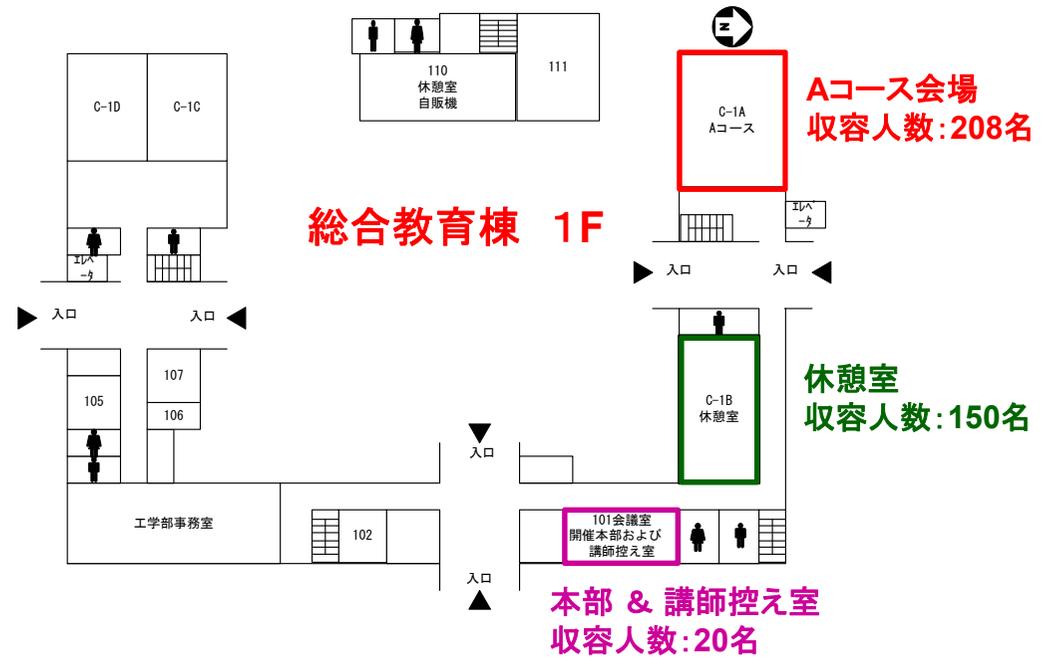
## 6. 会場の様子と配置図



Aコース会場(収容人数:208名)



Bコース会場(収容人数:210名)



水工学委員会  
2014年3月

# 第59回水工学講演会開催案

# 第59回水工学講演会開催案

- 日時：2015年3月10日(火)～12日(木)
- 場所：早稲田大学西早稲田キャンパス
  - 講演会場：52号館（6会場，定員164名，201名または220名）
  - 河川災害シンポジウム，アゲールシンポジウムならびに特別講演会場：57号館2階(定員420名)
  - 交流会：未定(63号館一階レストラン)
- 現時点で仮予約済み．本予約は2015年1月．

# 西早稲田キャンパス内の開催会場



東京メトロ副都心線 西早稲田駅から徒歩0分,  
JR山手線 高田馬場駅から徒歩15分, 新大久保駅から徒歩12分

平成26－27年度 土木学会論文集編集委員の推薦

推薦者案

- 横尾 善之 先生（福島大学）
- 杉原 裕司 先生（九州大学）
- 重枝 未玲 先生（九州工業大学）

平成24年度～25年度の担当

- 近森 秀高 先生（岡山大学）
- 神田 佳一 先生（明石工業高等専門学校）
- 横山 勝英 先生（首都大学東京）

平成 26 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画（案）

- 1) 委員会名：水工学委員会

連絡者氏名：竹林洋史

連絡先住所：〒612-8235

京都市伏見区横大路下三栖東ノ口

電話番号：075-621-2144

FAX 番号：075-621-2144

E-mail アドレス：takebayashi@sabom.dpri.kyoto-u.ac.jp

- 2) 研究討論会のタイトル

国内で近年発生している水害の特徴とそれらへの対策

主題（300 字以内）

2013 年は、山形、山口・島根、秋田、京都・滋賀、伊豆大島など、豪雨に起因した洪水氾濫、土砂災害などが多く発生した。また、2012 年は九州北部、宇治・大津で、2011 年は紀伊半島南部で水害・土砂災害が発生するなど、近年は毎年のように豪雨に起因した非常に多くの大規模水害が国内で発生している。これらの水害の特徴を気象特性、降雨流出特性、土砂流出特性、河川水理特性、洪水・土砂氾濫特性、河川構造物の耐水害特性などに着目して講師から話題提供頂く。また、これらの特徴を踏まえた上での今後の防災・減災対策について、会場からの質問も受けながら話題提供者を中心として討論を行う。

- 3) 座長氏名：堀智晴

所属：京都大学防災研究所

- 4) 話題提供者氏名・所属：

検討中

- 5) 定員：200 名

平成26年 全国大会 研究討論会 企画案（水工学委員会）（案）

- 1) 委員会名：水工学委員会
- 2) 研究討論会のタイトル：水理・水文解析のための汎用プラットフォームの普及と国際展開
- 3) 座長氏名：山田 正（中央大学理工学部土木工学科）
- 4) 話題提供者名：菊森佳幹（国土技術政策総合研究所）他
- 5) 定員：約 200 名

**主題：**

国内外で水理・水文解析のためのソフトウェアやソフトウェア同士の連携を可能にする汎用プラットフォームが開発されており、様々な分野で活用が進んでいる。我が国においても、従来から種々の水理・水文解析ソフトウェアが開発されており、平成19年からは産官学の連携のもと汎用プラットフォームが開発されているが、我が国の技術力に比して、それらの活用は限定的である。本討論会では、これらのソフトウェアの開発・活用状況をレビューするとともに、河川、下水道水事業等への導入・活用のための方策と国際展開の戦略について議論する。

2014 年 3 月 4 日

## 水工学論文集に関する報告・協議事項

水工学論文集編集幹事長 知花 武佳

## 【報告事項】

## ・編集委員

編集委員として、最終頁に示す 60 名（副査のみの委員 9 名を含む）にお願いしたが、今年度は、主査／副査を両方担当している人が Max16 件、副査のみを担当している人が Max8 件となった。来年度は、15 を目標に査読員を増やしたい。水文、流砂、環境を一人ずつ程度増やした方が良いように思われる。

## ・投稿論文の取り下げについて

論文内容に誤りがあったとの連絡を受け、所定の手続きに従い、一件の投稿論文を取り下げた。

## ・論文集の USB 化について

今回の論文集より USB 化をするという方針が決まり、外箱はそのまま、CD-ROM が入るスペースにウレタンを入れて、そこに USB メモリーをはめ込むという方法で検討した。しかし、下記のように、多少部数を減らしても 30 万円の予算増になること、USB も過渡的なものに過ぎないことを考慮し、今回の論文集は従来通りの CD-ROM とさせて頂いた。

CD-ROM 制作費（レーベル・ジャケット・ケース等含） 550 部 225,000 円

USB 2G（キャップ付）表面シルク印刷（一色） 450 部 550,000 円

## ・編集方針の確認

1. 減点方式ではなく、加点方式で評価。特に、新たな視点を提供しているものや、新しい取り組みをすくいあげていく方針へ。一方で、レビュー不足（自分の既往研究紹介のみ）、考察・検証不十分のものに対する適切な評価、及びアドバイスを。
2. 日本人が英語論文を書いたときの査読結果には英語でコメントが原則。第三査読者が日本語で書いてきた場合は、共著者に日本人がいればそのまま送付する。
3. 未だに減らない査読結果へのクレーム対策。返却文の書き方、あり方。第三査読者意見に対する主査副査によるチェックを徹底！→おかげさまで今年度は査読意見へのクレームは 0！！
4. 返却理由書では説明不十分であり、返却でも修正意見をつけるべきとの意見もあるが、原則つけない。著者から修正意見公表の問い合わせがあったときのみ主査が、内容を再考、修正し、公開する。

### 【新たに出てきた問題】

以下の点については、来年度対策を検討したい。

- ・投稿前の全著者によるチェック
- ・二重投稿の防止
- ・評価点数と英文論文集，論文賞推薦の整合性の徹底.
- ・情報漏洩の防止

### 【協議事項】

- ・土木学会論文集に掲載された論文の水工学講演会での発表について

第一回委員会で提案した内容. 実施上困難なところはないと思われ, 「来年3月の水工学委員会  
で最終決定し, 来年度から導入を目指したい」, としてきたため, ここでお諮りしたい. なお, こ  
れまでのところ, 特に異論は無かったが, 発表は義務ではなく権利であることは徹底して欲しい  
との意見あり.

- ・「投稿要領の改訂について」

以下, 第六条を次のように改定したい.

#### 6. 投稿原稿の書き方

1)投稿原稿は, 論文の査読の段階で用いるための原稿である. 投稿原稿は水工学論文集の様式に  
従ってとりまとめることとする. 投稿原稿は所定規格で電子ファイル化し, 委員会指定の WEB  
サイトからアップロードすること.

2)論文原稿1編のページ数の上限は6ページとする(厳守). ページの超過は認めない.

3)投稿原稿は, 十分に推敲されたものでなければならない. 他~~の~~発行者による図表などを転載・  
加工する際には, 著者の責任で著作権問題に抵触することのないよう十分注意すること.

4)投稿原稿は, 「水工学論文集投稿の手引」に沿って書かれた和文または英文の論文に限る.

5)論文投稿時には, 必ず全著者に投稿の了承を得ること. 投稿原稿に記載された著者及び著者の  
順序を, 投稿後に修正することはできない.

6)編集委員会からの指示がないにも関わらず論文題目を変更することや, 査読者からの修正意見  
と直接関連のない大幅な論文内容の修正をすることは認められない. 題目に明らかな誤りが見つ  
かった場合などは, 編集委員会の了承を得た上で修正すること.

7)登載決定後に論文は電子媒体として集録される.

8)査読により登載が決定した場合には, 所定規格で電子ファイル化された論文の最終原稿ファイ  
ルを委員会指定の WEB サイトからアップロードすること. 論文査読の際に修正意見が出された  
場合は, 適宜修正を施してから提出すること. 適切な修正がなされていない場合, 委員会は登載  
を取り消す.

- ・「査読キーワードの修正」

論文投稿時に選択するキーワードが古く, その後の主査・副査の選定の参考にならないとの意見  
があり, この修正について検討したい. 現状, 及び, 主査副査決定時の設定分野を参考にしたも  
のを以下に示す.

従来	新規
1. 水文統計・PUB	大気陸面過程
2. 大気陸面過程	植生水文モデル
3. 降水	気候変動とリスク評価
4. 流出	降水
5. 雪氷水文	流出解析
6. 地下水・浸透	雪氷水文
7. 河川計画, 河川管理	地下水・浸透
8. 土砂生産・土石流	河川計画・河川管理
9. 流砂・河床変動	土砂生産・土砂流出・土石流
10. 水害・氾濫	河床河道形態・構造物周りの移動床
11. 管路・局所流	流砂
12. 開水路の水理	都市の浸水・洪水氾濫・水害
13. 流体力・流体振動・波動	管路・局所流
14. 密度流・噴流・拡散	開水路の水理
15. 水理現象の数値解析	密度流・噴流・拡散
16. 観測技術	水理現象の数値解析
17. 河道・流域の環境	流体力・流体振動・波動
18. 湖沼・貯水池の環境	観測技術
19. 海岸・海洋環境	河道・流域の環境・評価
	流域の流出負荷・河川の水質
	水生生物（藻類, 底生動物, 魚類など）・魚道
	河道の植生・樹林化
	河道の物理環境
	湖沼・貯水池の水理と環境
	沿岸・河口域の水理と環境
	津波

以上

平成二十五年度 水工学論文集編集委員

【執行部】	3		
委員長	◎○道奥	康治	(神戸大)
幹事長	◎○立川	康人	(京大)
編集幹事長	◎○知花	武佳	(東大)
【水文】	17		
委員兼幹事	大石	哲	(神戸大)
委員兼幹事	○浅沼	順	(筑波大)
委員兼幹事	○石平	博	(山梨大)
委員兼幹事	○神田	学	(東京工大)
委員兼幹事	※木内	豪	(東京工大)
委員兼幹事	原田	守博	(名城大)
委員	沖	大幹	(東大)
委員	中北	英一	(京大防災研)
委員	○中津川	誠	(室蘭工大)
委員	○風間	聡	(東北大)
委員	○近森	秀高	(岡山大)
委員	堀	智晴	(京大防災研)
委員	八田	茂美	(苫小牧工専)
委員	川越	清樹	(福島大)
委員(副査のみ)	鈴木	正人	(岐阜工専)
委員	※江種	伸之	(和歌山大)
委員	※市川	温	(山梨大)
【河川水理】	15		
委員兼幹事	富永	晃宏	(名工大)
委員兼幹事	○二瓶	泰雄	(東京理科大)
委員兼幹事	藤田	一郎	(神戸大)
委員兼幹事	※川池	健司	(京大防災研)
委員	※矢野	真一郎	(九州大)
委員	※門田	章宏	(愛媛大)
委員	河原	能久	(広島大)
委員	※木村	一郎	(北大)
委員	鬼束	幸樹	(九州工大)
委員	渡辺	勝利	(徳山高専)
委員	○武藤	裕副	(徳島大)
委員	○杉原	裕司	(九州大)
委員(副査のみ)	藤堂	正樹	(パシフィックコンサルタント)
委員(副査のみ)	中嶋	規行	(日本工管)
【流砂】	7		
委員兼幹事	○関根	正人	(早稲田大)
委員兼幹事	※竹林	洋史	(京大防災研)
委員	泉	典洋	(北大)
委員	渡邊	康玄	(北見工大)
委員	里深	好文	(立命館大)
委員	神田	佳一	(明石工専)
委員	※堤	大三	(京大防災研)
【河川環境】	8		
委員兼幹事	○篠田	成郎	(岐阜大)
委員兼幹事	○田中	規夫	(埼玉大)
委員兼幹事	安田	陽一	(日本大学)
委員	○戸田	祐嗣	(名古屋大)
委員	○清水	義彦	(群馬大)
委員	※田代	喬	(名古屋大)
委員(副査のみ)	萱場	裕一	(土木研究所)
委員(副査のみ)	○今村	正裕	(電中研主任研究員)
【湖沼・ダム】	5		
委員兼幹事	○横山	勝英	(首都大学東京)
委員兼幹事	○角	哲也	(京大防災研)
委員	※矢島	啓	(鳥取大)
委員(副査のみ)	大槻	英樹	(ニュージェック)
委員	※梅田	信	(東北大)
【沿岸】	8		
委員兼幹事	田中	昌宏	(鹿島建設)
副査のみ	田中	仁	(東北大)
委員	朝位	孝二	(山口大)
委員	西田	修三	(大阪大)
委員	※米山	望	(京大防災研)
委員(副査のみ)	△八木	宏	((独)水産総合研究センター)
委員(副査のみ)	※井上	徹教	(港湾空港技研)
委員(副査のみ)	福濱	方哉	(国交省国総所)
◎執行部		執行部:3名	
○幹事		幹事:17名	
△海岸工学連絡委員		委員:60名	
※水工学委員以外		行政, 民間, 事情のある教員は副査のみ	

## 土木学会論文集に掲載された論文の水工学講演会での発表について

## ○提案

水工学講演会開催前年の土木学会論文集 No. 1 から 3 (水工学講演会開催前年の 1 月から 12 月の掲載分) に掲載された論文について、水工学講演会で発表する権利を与える。この場合、講演者は水工学講演会論文集での講演と重複しても構わないとする。

## ○利点

- 1) 土木学会論文集の投稿増が期待される。
- 2) 水工学講演会論文集 (土木学会論文集 No.4) の投稿減による査読の適正化が期待される。
- 3) 水工学講演会を日本最高の水工学の議論の場とできる。
- 4) 運用上の困難がない。
- 5) 海岸工学講演会ではすでにこうした扱いで実施されていて、特に問題は出ていない。
- 6) 発表論文から発表料を徴収することで、収入増につながる。

## ○欠点

特になし。

## 土木学会論文集編集委員会 宛

土木学会論文集の貴原稿の著作権は、土木学会へ最終原稿が提出された時点で、土木学会に帰属します。

著作権譲渡書に必要事項を記入、署名の上ご提出いただきますようお願いいたします。

著作者が複数の場合には、著作者全員の署名が必要です。

特別な事情により著作権の譲渡に承諾できない場合や一部制約がある場合には、その旨を書面にてご連絡いただきますようお願いいたします。

### 著作権譲渡書

下記の論文の著作権を土木学会へ譲渡いたします。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

掲 載 号： 土木学会論文集・部門 Vol. No. ( \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月発行)

(掲載号は事務局にて記入いたします。)

論文名：

著作者名：  
複数の場合、全員を記載

氏 名：  
(自署)

(〒 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

住 所：

所 属：

氏 名：  
(自署)

(〒 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

住 所：

所 属：

氏 名：  
(自署)

(〒 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ )

住 所：

所 属：